

氏名	辻 玲子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	老年看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1994年慶應義塾看護短期大学看護学科、1999年大分医科大学医学部看護学科、2001年日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程、2021年宮城大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2012年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本認知症ケア学会（代議員、関東1地域部会委員、査読委員、選挙管理委員会委員）、日本老年看護学会、日本看護管理学会、日本赤十字看護学会、埼玉県立保健医療福祉科学学会、日本看護科学学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	高校生ヤングケアラーの支援者間連携に関する課題	共同	第43回 日本看護科学学会 学術集会、下関市	○辻玲子、水間夏子、上原美子、浅井宏美、常盤文枝	2023.12	
2	皮膚・排泄ケア認定看護師による介護老人福祉施設への遠隔褥瘡コンサルテーションの試み	共同	第54回 日本看護学会学術集会、横浜市	○島田美穂、林裕栄、武田美津代、善生まり子、辻玲子	2023.11	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）		高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデルの検証と評価	研究代表者	2022.4～2025.3	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）		高校生ヤングケアラーのQOLに資する支援者間連携モデルの構築	研究分担者	2023.4～2026.3	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	老年看護学Ⅰ	○	6	学部1年次生に、老年期を生きる元気高齢者から衰弱・病弱高齢者までの一連の流れの中での高齢者の特徴や特性、老年看護の理念や考え方を講義した。		
2	認知症看護		1	学部4年次生選択者57名に、認知症の人の介護者支援をしながら、高齢者虐待に至らしめない予防も含む看護実践についてを講義した。		
3	家族看護学		1	学部2年次生に、認知症高齢者を介護する家族支援（日本の現状と課題、支援の考え方、サポートの種類、援助の実際）を講義した。		
4	臨床薬理学（CNS）		3	修士課程1年次生が体験した事例を基に、症状アセスメントや服薬管理の理論への活用、服薬管理困難事例の対応方法、専門看護師の役割についての検討を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	老年看護学Ⅱ (援助技術)		12	・ スポンジブラシと口腔ケア用ウェットティッシュと保湿剤を用いた自己口腔ケア演習と、口腔ケアモデルを用いた義歯の出し入れ演習をした (2コマ) ・ パーキンソン病の患者と妻への退院指導に関するロールプレイ演習を行った (2コマ) ・ 高齢者疑似体験セットを患者役の学生に着用させて、移動能力が低下した高齢者のもてる力を発揮した起き上がり援助を実践する演習を行った (2コマ) ・ パーキンソン病の人への排泄援助技術で、おむつ交換トレーニングモデルを用い、模擬尿の観察をし、又ベッド上でおむつ装着およびおむつ交換の体験演習を行った (3コマ) ・ パーキンソン病患者と一緒に楽しむレクリエーションの体験演習を行った (2コマ)
2	老年看護学Ⅲ (看護過程)		9	老年看護実践に必要な情報の収集、アセスメントの記述、看護上の問題・課題の記述を個人及びグループで行う際、グループを回って質問に回答したりした。
3	老年看護学Ⅳ (地域とケアシステム)		8	1~6回は、グループワークを行う際にラウンドして、進行状況を確認したり、質問に回答した。7~8回は、「高齢者の暮らしを支える老年看護のあり方」の成果発表である実習施設ごとの発表会及び全体発表会の運営を行った。
4	IPW演習		14	3年生の前半4グループ (24名)、後半4グループ (23名) が、自分達が選んだコロナ禍でのテーマの課題解決のプロセスをたどり、リフレクションをしながらIPWに求められる能力を高めるように、ファシリテートした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	老年看護学実習Ⅰ		2023.4~2023.6	2年次生16名を担当し、2か所の老人福祉センターにおける元気高齢者とのコミュニケーションを中心とした実習指導を4週間かけて (1人現地半日を2回) 行った結果、高齢者へのイメージや捉え方が変化した。
2	老年看護学実習Ⅱ		2023.10~2023.12	3年次生22名を対象に、介護老人保健施設での8週間の実習と特別養護老人ホームの見学実習を行った結果、看護展開しつつ、高齢者のADLや認知症の症状にあわせた援助やレクリエーションの企画と実施、多職種との連携の基礎を学ぶことができた。
3	総合実習		2023.4~2023.8 学外実習：4日 学内ゼミ：5コマ	4年次生4名が、回復期リハビリテーション病棟での3週間の実習において、自分の課題と向き合いながら、退院支援を含んだ患者への看護実践が展開・体験をして、かつリフレクションができるように、事前ゼミと実習中を通してアドバイスをした。
4	IPW実習		2023.8~10 施設 実習3日と学内発表会1日、オリエン4コマ	4年次生6名が、それぞれの学科の強みを生かしつつ、今回の対象者である特別養護老人ホームのデイサービス利用者の理解が深まり、かつ多職種の考え方の違いを学べるように、施設ファシリテーターと密に連携しながら、チームビルディングをサポートした。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.4~2024.1	主指導	3名 副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	老年看護学概論 (非常勤講師)	2023.12~2024.3	上尾看護専門学校1年生約40名への講義を対面で14コマ施行した。	
2	修士課程 (老年看護) の研究指導参加	2023.4~2024.3	修士課程3年生のゼミに参加し、修士論文作成の支援を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	ふじみ野市 令和5年度認知症講座講師	埼玉県ふじみ野市	認知症を知ろうー認知症の方との接し方から予防までー (市民50名対象)	2023.9

2	本学特定講座 埼玉未来大学講師	いきいき埼玉	介護を考える (川越130名、川口89名、熊谷56名、伊奈95名対象)	2023.9~10
3	本学オープンカレッジ講座	田中広美、高柳雅朗、辻玲子	防災と自助・共助について考える	2023.7~9
4	本学オープンカレッジ講座	埼玉県立大学 看護学科老年看護学領域	高齢者(認知症など)ケアを語り合う会(卒業生との交流会)運営	2023.11
5	令和6年 埼玉支部新年講演会講師	埼玉県弘済会埼玉支部	認知症の予防と対策(約30名対象)	2024.1
6	関東1地域部会 事例検討会 運営	日本認知症ケア学会	多職種よれば文殊の知恵:若年性認知症の方への支援	2024.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	日本認知症ケア学会		関東1地域部会委員	2014.4~現在
2	日本認知症ケア学会		日本認知症ケア学会誌査読委員	2020.6~現在
3	日本認知症ケア学会		日本認知症ケア学会 選挙管理委員会委員	2022.7~現在
4	日本認知症ケア学会		認知症ケア専門士認定試験 第2次試験審査委員	2023.11
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会(人を対象とする研究審査部門)委員		2022.4~2024.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	共同実験管理部会委員		2023.4~現在
3	学生支援	2023年度看護学科卒業生対象 ホームカミングデー運営		2023.5
4	大学広報活動	埼玉県立坂戸高校1~3年生30名の大学見学の際に看護学科紹介を行った		2023.5
5	大学広報活動	茨城県立下館第二高校2年生40名の大学見学の際に看護学科紹介を行った		2023.7
6	大学広報活動	オープンキャンパス 学生相談運営		2023.8
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			